わが市を語る 1

釧路市（北海道）

釧路市長　鶴間秀典

自分らしい「時間」を過ごす くしろスタイル

「笑えるくらい涼しいまち・釧路」から始まる、新しい滞在のかたち

「笑えるくらい涼しいまち・釧路」

かつては珍しかった40℃以上の気温は、近年、各地で相次いで記録されるようになりました。本年4月には、「酷暑日」という新たな気象用語も生まれています。

全国的に、厳しい暑さが続く夏にあって、釧路市は違います。本年の夏、本市では「酷暑日」はもちろん、「猛暑日」も「真夏日」も1日も記録しませんでした。「半袖だけでは少し肌寒い」と感じる日もあったほど。これを聞いて、思わず笑ってしまったのではないでしょうか。



「笑えるくらい涼しいまち・釧路」ポスター

本市では現在、釧路商工会議所を中心に、「笑えるくらい涼しいまち・釧路」を全国に向けて発信しています。「釧路市で涼しく過ごす」新しい夏の過ごし方を提案し、避暑などを目的とした長期滞在者・二地域居住者の受け入れを行っています。令和7年度には2364人、延べ3万1628日の滞在実績となり、北海道体験移住「ちょっと暮らし」では、平成23年度から15年連続で、北海道内第1位となっています。さらに、冷涼な気候を生かしたスポーツ合宿の誘致にも取り組んでおり、令和7年度には、陸上、野球、アイスホッケーなど122団体の皆さまに訪れていただきました。

本市の魅力は、夏の涼しさだけではありません。春はスギ・ヒノキ花粉が飛散していません。秋から冬にかけては、釧路港の新鮮な海産物を特に楽しむことができます。冬は晴天の日が多く、雪が少ない地域であるため、澄み切った青空の下で過ごす冬にも、本市ならではの魅力があります。夏は涼しく、冬は雪が少なく日照時間が長いという気候特性は、本市の大きな強みです。


勝手丼

この他にも、世界に誇る多くの宝があります。日本最大の湿原である釧路湿原、阿寒湖と阿寒摩周国立公園、特別天然記念物のタンチョウや阿寒湖のマリモ、そしてアイヌ文化。さらに、好きな海鮮ネタを選んで自分だけの丼を作る「勝手丼」や、海産物を炭火であぶる炉端焼きといった食文化、幣舞橋（ぬさまいばし）から望む夕日も、本市を代表する魅力です。

こうした多彩な魅力は、本市を「観光するまち」にとどめず、「一定期間、暮らしてみたいまち」として選ばれることにつながっています。夏の涼しさを入口として本市を訪れ、その自然、食、文化、そして日々の暮らしやすさに触れていただくことで、長期滞在や二地域居住という新たな人の流れが生まれています。

そして、観光や滞在により生まれた交流をきっかけに、本市を知り、好きになり、再び訪れていただく。さらには、二地域居住や移住など、関わりを深めていただく。こうした人のつながりを、これからも大切にしていきたいと考えています。

自分らしい「時間」を過ごせるまち

本市には、多くの魅力があります。多くの方に訪れていただいている今、さらに多くの方に「選ばれる釧路市」となるため、訪れる方が求める本質的な価値を見つけ


釧路市湿原展望台


世界三大夕日に数えられる絶景（幣舞橋）

出し、発信する「KUSHIRO BRANDING PROJECT」に取り組んでいます。

このプロジェクトは、観光、ふるさと納税、長期滞在、二地域居住、移住などを一体的に捉え、本市のブランドを構築し、本市の認知度を高め、「選ばれる釧路市」を実現していく取り組みです。

ブランド構築にあたっては、「釧路でどのような時間を過ごし、どのような価値を得られるのか」という視点から、移住者を含む市民の皆さまとワークショップを重ねました。

その結果、本市のブランドを「住む人も訪れる人も、思い思いに自分らしい『時間』を過ごすことができるまち」と定めました。豊かな自然が身近にあり、おいしい食と澄んだ空気に触れて心身のリズムを整え、人とまちに自然となじんでいく。酷暑や花粉の季節には得がたい、自分らしい暮らし方や働き方を実現できることこそ、本市ならではの価値です。

そして、このブランドを象徴するロゴ・キャッチコピーを決定しました。※ページ左上参照

決定にあたっては、本年8月に市民、全国の釧路ファンによる投票を実施しました。投票数は本市の人口の約15％にあたる2万2598票となりました。多くの皆さまと共に本市の未来をつくり上げることができたことは、これからブランドを育てていく上での大きな財産です。

本プロジェクトは、ロゴ・キャッチコピーを作って終わるものではありません。

今後は、令和9年3月ごろをめどにブランディング戦略とロゴ・キャッチコピーのガイドラインを策定・公表し、市民、企業・団体、行政が共通のブランドのもとで、観光やふるさと納税、長期滞在、二地域居住、移住などの取り組みを横断的につなぎ、継続的なプロモーションを展開してまいります。

市民、企業・団体、そして行政が、それぞれの取り組みや日々の暮らしの中で「釧路らしさ」を体現・発信していく。その積み重ねによって、「釧路といえば、こういうまち」というイメージが、時間をかけて育まれていくものと考えています。

決定したロゴ・キャッチコピー
「わたしに還る、くしろスタイル」

選ばれるまちを目指して

「笑えるくらい涼しいまち・釧路」。この言葉をきっかけに本市を訪れた方が、涼しさだけではなく、雄大な自然、新鮮な食、受け継がれる文化、そして人の温かさに触れる。そして、本市の本質的な価値である自分らしい時間を過ごし、「また釧路に来たい」「ここで少し暮らしてみたい」と感じていただける。そのようなまちを目指しています。

そして、本市に住む私たち自身も、このまちの魅力を改めて実感し、誇りを持つことができる。

住む人からも、訪れる人からも選ばれる釧路市を、市民の皆さまと共につくってまいりたいと考えています。

プロフィール

◆面積　1363・26㎢
◆人口　14万9777人
◆世帯数　9万3766世帯

〔将来都市像〕「つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路」
〔まちの特徴〕二つの国立公園を持つ豊かな自然と、夏も涼しく雪が少ないひがし北海道の中核拠点都市
〔市町村合併〕平成17年10月11日、釧路市、阿寒町、音別町の3市町が合併
〔特産品〕新鮮な魚介類・水産加工品、炉端焼き、釧路そば、釧路ラーメン、ザンギ、エゾシカ（ジビエ）、富貴紙（ふきがみ）など
〔観光〕幣舞橋、和商市場、釧路市湿原展望台、釧路市丹頂鶴自然公園、道の駅阿寒丹頂の里、阿寒湖畔など
〔イベント〕北のビーナス蕗まつり、くしろ霧フェスティバル、くしろ港まつり、くしろ市民北海盆踊り、釧路湿原マラソン、釧路大漁どんぱく、まりも祭り、くしろ冬まつりなど




釧路市長
鶴間秀典

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

所沢市（ところざわ）（埼玉県）

所沢市長　小野塚勝俊（おのづかまさとし）

「航空」・「保健所」発祥のまち 「可能性が広がるまち」日本一へ

県が設置する狭山保健所に統合されていますが、中核市への移行と併せて、コロナ禍を経た新たな保健所の設置を計画しており、20年ぶりに市内に保健所が復活する予定です。

所沢市×埼玉西武ライオンズ

本市は「埼玉西武ライオンズ」のホームタウンです。日本に12球団（NPB）しかないプロ野球チームにおいて、政令指定都市ではない本市のような自治体に本拠地があるのは珍しいことで、「埼玉西武ライオンズ」は「所沢市民の誇り」です。

本年開催された「埼玉西武ライオンズ」の夏の大型イベント「アオフェス2026」では、「街を、心を、青に染めろ。」をコンセプトに、夏のナイターゲーム前の青空と夕日が織りなす「所沢の空」をイメージし、ライオンズの選手も約1カ月にわたり着用した限定ユニフォームを、所沢市役所職員約2000人、西武グループの社員

年となる2030年に中核市への移行を目指して準備を進めています。中核市への移行により、市民ニーズや地域課題に迅速かつ的確に対応できるようになり、市民の皆さまに、より身近で質の高い行政サービスをお届けできるようになります。本市は、日本で最初に保健所が造られた「保健所発祥のまち」でもあります。現在は、埼玉



保健所発祥の地碑

2030年に中核市への移行を目指しています

所沢市は、埼玉県と東京都の境、都心から30㎞圏内に位置しながら、狭山丘陵など緑が多く、都市機能と自然が共存するまちです。

鉄道や高速道路などの交通インフラも格段に良く、市の玄関口となる所沢駅は、西武池袋線と西武新宿線の2路線が通り、東京都心や横浜まで乗り換えなしで行くことができるなど、通勤・通学の利便性が高い一方で、関東地方で唯一、「世界農業遺産」に認定された「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が、江戸時代から現在に至るまで引き継がれるなど農業も盛んです。狭山茶はもちろん、里芋、にんじん、ほうれん草などが特産品として知られています。他にも、プロ野球チーム「埼玉西武ライオンズ」、プロバスケットボールチーム「さいたまブロンコス」のホームタウンであり、日本最大級のポップカルチャーの発信拠点である「ところざわサクラタウン」があるなど、あれもこれもある、市民・事業者の皆さまにとって「可能性が広がるまち」です。

また、地盤が堅固な武蔵野台地の上に位置しており、大きな河川がなく氾濫や水害が少ないといった「災害に強いまち」でもあります。だからこそ日本で最初に飛行場が造られたという歴史があります。

現在、本市では、市制施行80周


ところざわサクラタウン



埼玉西武ライオンズの本拠地「ベルーナドーム」


市職員もユニフォームを着用

や市内の商店街およそ100店舗の従業員が着て業務を行いました。所沢駅西口駅前広場をライオンズのチームカラーである青に染めるライトアップも実施されるなど、本市が一丸となってライオンズを応援しました。

また、昨年度から「ライオンズ ピンクリボンキャンペーン」と協力し、乳がん検診促進のため、ベルーナドームのLビジョン（球場内の大型映像表示装置）での啓発動画の放映や、啓発ブースの出展などを行っています。

日本の航空発祥のまち！

本市は、1911年に日本で最初に飛行場から大空への飛行に成功した「航空発祥のまち」です。当時、大空は未知なるもので、その大空に飛び立つことは大きな挑戦でありました。本市には夢と志を抱いた人々が集い、まちを挙げてその人々の挑戦を支えました。先人たちの勇気と情熱は、今もなお、「所沢市民の誇り」として息づいています。その歴史を多くの方々に知っていただくため、本年4月に「所沢航空発祥祭」を初めて開催しました。

また、本市は「となりのトトロ」の舞台のモデルとされる狭山丘陵があります。トトロに愛着を持つ市民も多く、所沢駅東口ロータリー内には「となりのトトロ」のモニュメントもあります。さらに、所沢駅の全てのホームで発車メロディにトトロの楽曲「となりのトトロ」および「さんぽ」が使用されています。


日本の航空発祥のまち

数多くの魅力がある本市では、本年度からシティプロモーションを積極的に推進しています。事業の取り組みの一つとして、Instagramの活用も積極的に実施し、多くの職員が出演しています。ぜひご覧ください！

これからも、本市のさまざまな魅力に磨きをかけて、市民の皆さまにとって、「所沢市民であることをさらに誇れるまち」に、市外の皆さまには、所沢に住んでみたい、関わってみたいと思っていただけるまちになるよう、どなたにとっても「可能性が広がるまち」日本一を目指してまいります。


「となりのトトロ」モニュメント

プロフィール


所沢市長
小野塚勝俊

◆面積　72・11㎢
◆人口　34万3311人
◆世帯数　17万4799世帯

〔まちの特徴〕「埼玉西武ライオンズ」「さいたまブロンコス」のホームタウンであり、日本最大級のポップカルチャーの発信拠点である「ところざわサクラタウン」もあります。豊かな自然にも恵まれ、鉄道や高速道路へのアクセスも格段に良い、あれもこれもある「可能性が広がるまち」です

〔特産品〕狭山茶、里芋、にんじん、ほうれん草、焼だんご、武蔵野うどん

〔観光〕ベルーナドーム、西武園ゆうえんち、狭山湖、ところざわサクラタウン（角川武蔵野ミュージアム）、所沢航空記念公園

〔イベント〕所沢航空発祥祭、ところざわまつり、所沢市民フェスティバル、所沢シティマラソン、所沢市闘茶会など



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

豊橋市（愛知県）

豊橋市長　長坂尚登（ながさかなおと）

子どもたちの未来を育む「豊橋総合動植物公園」



植物園の大花壇



私（一番左）が子どもの頃から愛するのんほいパーク

私が愛するのんほいパーク

私が子どもの頃から愛してやまない、本市自慢の「のんほいパーク（豊橋総合動植物公園）」は、市民に憩いの場として親しまれ、子どもたちの学びと成長を支える教育・学術機関として重要な役割を担っています。のんほいパークで私は動物、生物、進化を好きになり、大学選択にも大きく影響しました。今は私が親になり、子どもと一緒によく訪れます。

今は「知る人ぞ知る」人気ですが、実は歴史もある全国屈指のすごい施設です。本稿では、そんなのんほいパークをご紹介します。

のんほいパークの歴史は、本年、市制施行120周年を迎えた豊橋市より古く、明治32（1899）年の私立「安藤動物園」開園にさかのぼります。昭和6（1931）年、豊橋市へ寄付され、「豊橋市立動物園」となりましたが、戦中に閉園し、空襲で全壊しました。しかし、昭和29（1954）年、吉田城址である今の豊橋公園に「豊橋市動物園」として復活し、昭和45（1970）年にJR二川駅から徒歩約6分の現在地へ移転しました。

人に優しい取り組みと100万人の入園者

のんほいパークは、坂が少なく、施設の出入口や観覧通路にも段差がなく、緩やかなスロープを設け、快適に移動できるようにしています。

子育て世代に、より快適にご利用いただけるよう、おむつ替えスペース（19カ所）や空調の効いた授乳室（8カ所）を設置、おむつ用のダストボックスや授乳用のお湯の用意など、きめ細かいサービスも提供しています。

また、障害などにより人の声や泣き声に敏感で通常入園が困難な方が、休園日に入園できる制度も設けています。

近年、年間入園者数100万人を達成しました。JAZA（日本動物園水族館協会）加盟園で、東京・名古屋・大阪の動物園が並ぶ中、トップテン常連に成長しています。最近はSNSにも注力しています。三つ子の赤ちゃんライオンの健康診断動画などが注目を集め、YouTubeでは本年8月から収益化チャンネルとして認められました。



令和3年から始まった6頭での群れ飼育（アジアゾウ）

博物館であり、公園でもある

のんほいパークは、自然史博物館と動植物園の両方が博物館法に基づく「登録博物館」であり、学芸員、獣医師等15人（うち博士号取得者6人）が在籍しています。さらに自然史博物館は、文部科学省科学研究費助成事業の指定研究機関

となりました。動植物園も各種基金や助成金を獲得し、大学などの関係機関と連携して学術活動を盛んに行っています。おのおのが専門性を生かした資料の収集・保存、調査研究を行っており、学会での発表も盛んです。そして、蓄積した知識や研究成果を市民への教育普及活動にも生かしています。

例えば、私も30年前に参加した夏休みのサマースクールは、専門職員の知識と経験を生かした体験型の学び場です。こうした取り組みを長年継続し、子どもの夢や心を育むことができるのは、動植物園と自然史博物館を兼ね備える私たちの強みです。


秋篠宮皇嗣殿下が自然史博物館にご来訪

子育て・教育・国際的な学術の機関として

のんほいパークはWAZA（世界動物園水族館協会）にも加盟しています。国内で個別会員のWAZA加盟は10施設のみで、のんほいパークは国際的にも重要な役割を担っています。

令和7年度には、JAZAの通常総会が本市で開催されました。総裁で、「生き物文化誌学」の研究者でもあられる秋篠宮皇嗣殿下にご来園いただき、私たちの活動に高い関心をお寄せいただきました。通常総会に合わせて開催したシンポジウムでは、WAZA、Species360、Wild Welfareという国際的な3団体が国内で初めて、豊橋で一堂に会しました。そして本年度はWAZA会長が来日、豊橋を訪れ、講演会を開催しています。これらは、私たちが国内外から高く評価されていることを示すものです。

のんほいパークは、子どもたちが本物の動物や植物に触れ、楽しみながら自然や科学を学ぶ「教育の場」であると同時に、専門職員が研究を行い、その成果を社会に還元する「学術の場」でもあります。

これから　～自然科学教育の拠点として～

生物、自然史にとどまりません。近隣にプラネタリウムを備えた視聴覚教育センターと地下資源館があります。天文、物理、化学、地学に関する科学教育施設です。今後は、これらの機能ものんほいパークへ集約することを考えています。自然科学を横断的に学べる場をつくり、専門的な研究や科学教育の拠点としての機能をさらに高め、市内外から人が集う全国初の科学教育機関を目指しています。

のんほいパークは、単なるレジャー施設でなく、自然や生命の大切さを学び、子どもの好奇心や探究心を育む教育・学術の拠点です。長い歴史で培われた知見と専門性を生かしながら、市民に愛される総合公園として発展を続けてきました。これからも未来を担う子どもたちを育み地域の魅力を高める基地として、その価値をさらに高めてまいります。

プロフィール


豊橋市長
長坂尚登

◆**面積**　262・05㎢
◆**人口**　36万1307人
◆**世帯数**　16万7998世帯

〔将来都市像〕未来を担う　人を育むまち・豊橋

〔まちの特徴〕国道1号が通る東海道の要衝。国際港湾・三河港を擁し、製造品出荷額等は1・7兆円を超える。農業も全国有数

〔特産品〕豊橋筆、ちくわ、豊橋カレーうどん、うずら卵、大葉、次郎柿、ブラックサンダー、豊橋駅弁稲荷ずし

〔観光〕のんほいパーク、吉田城址、国指定天然記念物・葦毛湿原、国史跡・馬越長火塚古墳群、手筒花火、路面電車

〔イベント〕豊橋三大祭（鬼祭、祇園祭、羽田祭）、ええじゃないか豊橋まつり、鈴木亜由子杯 穂の国・豊橋ハーフマラソン、とよはしキラキラ☆イルミネーション



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 4

新居浜市（愛媛県）

新居浜市長　古川拓哉

対話と挑戦で未来をひらく「新しい にいはま」へ



別子銅山関連遺産「東洋のマチュピチュ」と称される東平（とうなる）地区

「住みよさランキング」四国第1位　歴史と産業、人のつながりが育むまち

瀬戸内海の穏やかな海と、豊かな自然に恵まれた山々に抱かれた新居浜市は、歴史と産業、人のつながりによって発展してきたまちです。

その礎となったのが、江戸時代に開坑した別子銅山です。長い歴史の中で培われた技術やものづくりの精神は、現在にも受け継がれ、住友各企業をはじめとする多くの企業が集積する、四国を代表する工業都市へと成長してきました。

また、四国三大祭の一つと言われる新居浜太鼓祭りに代表される地域文化や、別子銅山に関連する近代化産業遺産など、先人たちが築き上げてきた歴史や誇りも、本市の大切な財産です。

こうした産業の力、豊かな地域資源、人と人とのつながりは、未来へ引き継ぐ大きな魅力であり、2026年度には東洋経済新報社から発表された「住みよさランキング」で、四国内の人口10万人以上の都市の中で第1位の評価を頂きました。これは、本市が暮らしやすく、魅力あるまちとして歩みを進めている一つの証であると考えています。

対話を重ね、未来への挑戦を進める

市長就任以来、私が大切にしているのは「現場主義」と「スピード感を持った対応」です。

市民の皆さまの声を直接お聞きし、行政だけでなく、市民、企業、団体の皆さまと力を合わせたまちづくりを進めています。

本年度は、「子育て支援の充実」「地域経済の活性化」「防災能力の強化」を3本柱に掲げ、「新しい にいはま」の実現に向けた取り組みを進めています。



新居浜太鼓祭りの勇壮な躍動

子どもたちが夢を描けるまちへ

未来の本市をつくるのは、次代を担う子どもたちです。

本市では、妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援する「こども・子育て複合施設」の整備を進めるとともに、子育て家庭への支援、保育・教育環境の充実に取り組んでいます。

また、小・中学校体育館への空調設備整備など、安心して学ぶことのできる環境づくりにも力を入れています。

子育て世代の皆さまに「新居浜で子育てをしたい」、子どもたちに「新居浜で育ってよかった」と感じてもらえるまちを目指してまいります。

ものづくりの力を次の時代へ

本市には、別子銅山から受け継がれてきた「ものづくりの力」という大きな財産があります。

この強みを未来へつなげるため、市内企業の持続的な発展を支援するとともに、人材の確保・育成、企業誘致、設備投資の促進などに取り組んでいます。



大島で育まれる「七福芋」



七福芋を原料とする白いもプリン



ゴルフインバウンドに取り組む

また、令和7年度に立ち上げた「にいはま営業本部」を中心に、地域産品の発掘や販路開拓にも力を注いでおり、本市唯一の離島である大島で育まれる「七福芋」をはじめ、地域の歴史や風土が育んだ資源に新たな価値を加え、市内外へ発信し、本市の魅力向上につなげてまいります。

地域全体で災害に備える

大規模災害時には行政だけで全てに対応することは難しく、「自らの命は、自ら守る」ことを基本に、市民一人一人の「自助」、地域で支え合う「共助」、行政による「公助」がそれぞれの役割を果たすことが重要です。さらに足らざる部分を補うため、民間事業者などとの災害時応援協定を143件締結しており、専門的な知識や技術を持つ事業者との連携を深めています。

関心人口の広がりと新たな可能性

人口減少の時代において、地域の活力を維持・向上させるためには、定住人口だけでなく、本市に関心を持ち、さまざまな形で関わっていただく入口となる「関心人口」を増やしていくことが重要です。

こうした関心人口の広がりは、将来的な「関係人口」や「交流人口」の拡大、さらには地域の持続的な発展につながるものと考えています。

本市の魅力や価値を積極的に発信し、「訪れてみたい」「関わりたい」「応援したい」と思っていただける人を増やすことで、本市との継続的なつながりづくりを進めてまいります。

新しい取り組みの一つとして、近年需要が高まっているゴルフインバウンドにも取り組んでおり、市内ゴルフ場や宿泊施設、海外旅行会社などと連携し、韓国や台湾からの旅行者を迎える取り組みを進めています。

今後は、ゴルフだけでなく、観光資源や、本市ならではの歴史・文化・食の魅力を組み合わせ、地域全体への周遊促進や消費拡大につなげてまいります。

人口減少を、新しいまちをつくる力に

私は、人口減少を単なるマイナスではなく、より良いまちづくりへ転換する機会と捉えています。

その考え方が「スマートシュリンク」、すなわち「賢く縮む」という発想です。限られた人材や財源、公共資産を有効に活用し、デジタル技術の活用や公共施設の再編などを進めながら、「まちの規模」ではなく「まちの質」を高めてまいります。

令和9年には、市制施行90周年という節目を迎えます。先人たちが築いてきた歴史と誇りを未来へつなぎ、その先の100周年に向けた新たな一歩を、市民の皆さまと共に歩んでまいります。

若い世代が夢を描き、挑戦できるまち。住んで、働き、子育てをして、笑顔で暮らせるまち。そんな「新しいにいはま」の実現に向け、対話を重ね、挑戦を続けていきます。



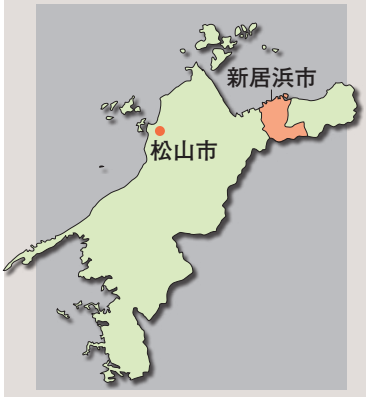
新居浜市長
古川拓哉

プロフィール

◆**面積** 234・46㎢
◆**人口** 10万9940人
◆**世帯数** 5万7149世帯

〔将来都市像〕ー豊かな心で幸せをつむぐー 人が輝く あかがねのまちにいはま

〔まちの特徴〕愛媛県東部、瀬戸内海と四国山地に囲まれた自然豊かなまちです。江戸時代に開坑した別子銅山を礎に発展し、現在では多様な製造業が集積する四国屈指の臨海工業都市となっています



〔市町村合併〕平成15年4月1日、別子山村を編入合併

〔特産品〕七福芋（白いも）、ふぐざく、えび天、ヒット焼き、華姫桜（日本酒）

〔観光〕別子銅山関連遺産（東洋のマチュピチュとも称される東平地区、国指定重要文化財・名勝 旧広瀬邸、旧端出場水力発電所）、マイントピア別子、マリンパーク新居浜、新居浜太鼓祭り

〔イベント〕新居浜太鼓祭り、にいはま納涼花火大会、あかがねマラソン、別子銅山関連イベント

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。